

日本図書館研究会情報組織化研究グループ 2024 年 6 月月例研究会
日本図書館研究会情報組織化研究グループと私：その概略

田窪直規

0. はじめに

- ・ 振り返り、実にいろいろ書いていることに気づく
←若いころは凄いエネルギー、いまよりうんと才覚（研究能力）があった
- ・ すべて取り上げられないので取捨選択→つまみ食いの ．：概略
- ・ 情報組織化研究グループと私については下記の第 1 部も参照
←私がちょくちょく出てくる

日本図書館研究会整理技術研究グループ編．整理技術研究グループ 50 周年記念論集．日
本図書館研究会整理技術研究グループ，2007，186p.¹⁾

1. 1983 年：図書館情報学との出会い

←脱サラし、図書館情報大学に 3 年次編入

図書館情報学は学問か？

←理論や体系性に対する疑問（主題組織法や書誌データ論も同じ）

実学ではなく実務解説、大学ではなく専門学校で扱うべきものでは？

この点を意識した文献あり²⁾

→3 年次編入後、学部を中退し大学院に切り替え

2. 整理技術研究グループ（整研）（情報組織化研究グループの前身）との出会い

- ・ 大学院を休学したとき、研究的雰囲気には接しておくため例会（現在の月例研究会）に参加してみた(84 年か 85 年ころ)
←復学するまで参加していたと思う

3. 1987年から：奈良国立博物館の研究官時代

- ・ 最初：懇親会目当てで整研の例会に参加
∴だいぶ遅刻し、懇親会のころから参加（懇親会が楽しそうだった）
- ・ そのうち最初から例会に参加
- ・ さらにそのうち当時の世話人の柏田雅明氏が運営委員にスカウト←これ以降ずっと委員
（88年ころから？）

- ・ 勉強会にも参加：吉田暁史氏が主導←平日の夕刻から夜の時間帯

私が参加したころ

英国の分類法研究グループ(Classification Research Group: CRG)に関連する文献

例：ランカスター『情報検索の言語』、オースチン“PRECIS”・・・

川村敬一『サブジェクト・インディケーション』³⁾

←主題組織法には応用レベルの理論があり、これなら学問になりえると思った

BC2 序論も読んでいた→のちに翻訳出版『資料分類法の基礎理論』

結局出版は近大に入った後（1997）⁴⁾

←若い時に本気で、全力で取り組むと実力がつくし、その後の肥やしになる

- ・ 1991 TP&D フォーラムの立ち上げ→現在も続く

- ・ 1980年代末：オリジナルな考え

*分析合成型分類法の考え方と自動分類（ベクトル型分類）の相同性（1991）⁵⁾

←PMESTは5次元座標系における分類 この並びは、5次元1次元変換規則

複合主題と混合主題と座標系

←後に、この考えをも紹介し、分類法について総合的に考察(2001)⁶⁾

←ただしこれは、近大時代

*メディアのメッセージ・キャリア構造からみた1レコード記述の不可能性

例: 新聞というメディアは新聞記事というメッセージと新聞紙というキャリア
からなる

図書館資料: メッセージとキャリアが1対1対応しない(1994)⁷⁾

∴1レコード記述では無理が生じる

←メッセージの自由な動き: メッセージの可動性 (複写的可動性)

キャリアはメッセージの仮の宿り先

図書館資料のメッセージ中心性

←図書館資料のみならず、博物館資料(1994)⁷⁾、文書館資料(2002)⁸⁾を見るとき視点

博物館資料: キャリア中心 (メッセージはキャリアに閉じ込められている)

文書館資料: 両者重要

後に、博士論文(2004)⁹⁾につながる

←メディアのメッセージ・キャリア構造からの MLA3 世界等の総合的考察
(ただし、近大時代)

- アート・ドキュメンテーション関係の発表¹⁰⁾
- 図書館情報学分野以外の分類¹¹⁾

4. 1995年から: 近畿大学の司書課程を担当

- 情報組織化関係の発表、いろいろ
- この分野の教科書も書いた (2007~2021)¹²⁾
- 引き続きアート・ドキュメンテーション関係の文献

例: CIDOC CRM(2003)や IGMOI(2003)¹³⁾

博物館の目録(2017)¹⁴⁾

- 時期的に、電子図書館関係も(1995, 1996)¹⁵⁾

- MLA 連携(2010) ¹⁶⁾

←MLA 資料データの比較(2016, 2023)¹⁷⁾

MLA 資料の LOD 化問題

- 書誌情報に関する日本図書館研究会の記念誌（300号記念特集）の論文(2001)¹⁸⁾
- 旧来の目録法の考えへの総批判:50周年記念誌(2007)¹⁹⁾
主記入、記述独立、記述目録法—主題目録法という図式←これらを批判
- オントロジと分類法理論(2010)²⁰⁾
組織化に推論の効くオントロジの応用、ファセット分類法とオントロジの分類、ロールと固有定義箇所(place of unique definition)、2次元的な組織化など
- 書誌調整と LOD (2014) ²¹⁾←あほなことに忙殺され、論文化できず（悔やまれる）
セマンティック・リンクとは何かという事から始まり、一生懸命理解を進めた
なお、LODをも視野に入れて書誌情報や書誌コントロールの解説文も書いた(2017)²²⁾
- うめ草の索引法(2013)と目録法(2018)の論文 ²³⁾
- 図書館情報学事典(2023) ²⁴⁾で3つの記事を書く（博物館学、博物館の情報組織化、文書館の情報組織化）
- 博士審査の外部副査4回（2009, 2010, 2016, 2019）
←いずれも、情報組織化関係

5. 終わりに

- 整研・情組研と関わり出して40年弱：いろいろあったし、いろいろした
- 今回の紹介の他にもいろいろあることが分かった←よくやったものだ
- 色々オリジナルなものを出したが、結局斬新なのは、分類法の座標系モデルと、メディアの構造かな
- 今後のはのんびり参加予定